

## 1 基本情報

- (1)施設所在地：中南部地域
- (2)居室形態：個室
- (3)感染者数：1人

## 2 経緯

- ・ 8月28日  
関係者1名発熱したため施設利用制限。
- ・ 8月31日  
上記関係者発熱継続のため病院受診。PCR検査実施し当日陽性判明。
- ・ 9月1日  
入居者25名・職員9名PCR検査実施。  
県へ状況を報告。
- ・ 9月2日  
9月1日の検査結果全員陰性  
職員20名PCR検査実施。
- ・ 9月3日  
9月2日検査した職員全員陰性確認。
- ・ 9月5日  
入居者1名発熱したためPCR検査実施。同日陰性確認。
- ・ 9月8日  
県から個人防護具の提供を受ける。
- ・ 9月11日  
入居者1名血痰が出たため抗原検査を実施したところ陰性。陽性関係者について体調が回復してきたためPCR検査実施し陰性確認。
- ・ 9月12日  
9月11日検査した職員陰性確認。県本部と保健所へ報告となる。

## 3 施設感染に係る状況

### (1)初回発生確認日について

#### ①施設の状況

8月31日(月)発熱により病院外来を受診。同日夕方PCR検査陽性と本人より報告を受ける。施設内で職員の動揺が見られ、接触者からの問い合わせもあり、勤務調整の検討をはじめ。

#### ②対応

関係医療機関の感染対策室と連携し、発熱から2日前の当該職員の勤務状況把握、濃厚接触者の特定、接触者リストを作成し方向する。勤務調整実施。

施設全体を環境クロスにて清拭施行。特に以下を念入りに清掃。

ア)更衣室や共有スペース、イ)トイレ、ウ)廊下の手すり、エ)エレベーター内・ボタン

#### ③特に対応に配慮した事

隔離フロアと入居者の限定と入居者及び職員の限定の限定ができ、入居者の発熱の有無、職員の発熱の有無をチェックし、個室管理対応へと切り替え、更なる感染拡大が起きないよう対策を取った。

## (2) 2日目以降の確認日

### ①施設の状況

保健所へ発生階入居者 16 人と職員 11 人の接触者リストを FAX する。  
関係病院の感染対策会議にて PCR 検査施行が決定し、検査を実施。  
接触者リストより、発生階の全入居者 30 名程度、発生階勤務職員(左記と同数程度)の PCR 検査を実施し、全員陰性を確認。感染発生から 2 日間で、接触者ほぼ全員の PCR 検査陰性が確認できたことで職員の不安軽減に繋がった。

### ②対応

引き続き、入居者全員の朝・夕の体温測定及び全職員の朝・夕の体温測定と健康観察実施を 2 週間行った。  
施設全体がで個室ケア体制とし、認知症や個室対応困難な入居者様を選択し、食事摂取方法や日常の過ごし方をできるだけ変更させないように、3密を避ける体制、食事介助時間帯の勤務調整を図った。

### ③特に対応に顧慮した事

職員家族についての保育園や学校からの問い合わせに対し、職員から対応確認があり、感染対策会議を随時開催、全職員で情報共有をし、不安の軽減に努めた。  
フロアでの限定隔離ができたことで、介護職員の固定と看護職がほぼ固定できた。  
マスクに関しては、職員に 1 日 1 枚を提供できていたが、個人防護具に関しては長袖ガウンが 10 枚程度しかなく、微熱ありの入居者限定でケア等に使用し、通常はエプロンと手袋着用、アルコールによる手指消毒の徹底を行った。

## (3)終息期

### ①施設の状況

施設内換気の徹底、環境クロスによる手すりやトイレ等の清拭、3密を避け、ソーシャルディスタンスの徹底ができるようになった。

### ②対応

施設内入居者で発熱が発生した場合、速やかに病院の発熱外来を受診。  
その後、入居者 2 人の PCR 検査陰性を確認した。

## 4 改善・所感

入居者へマスクの着用を促しても、すぐに外してしまうため全員がマスク着用とはいかなかった。布マスク管理も難しく、ペーパー等で手作りマスクを使用。今後、入居者のマスク着用については検討課題。

また、衛生材料の物品が不足状態で、特に防護服は介護施設での確保が困難なため、県より 5 箱袖付エプロンを補充していただいた。今後、衛生材料確保も重要課題。最後に施設で一番難しいのが、濃厚接触者や自宅待機者が出た場合の勤務配置で、少ない職

種での感染等が起こった場合の人材確保と、特に夜勤者の配置が困難となるため、交代での勤務態勢づくりが課題となる。